



団体交渉
ポイント②

安全・安定輸送の確保に向けて議論を展開

申1号・2018年度「冬期の取組み」に対する申し入れ

新潟地本は11月21日、申1号・2018年度「冬期の取組み」に対する申し入れの団体交渉を行いました。今冬期に増設される雪況カメラの運用方法やポイント不転対策をはじめ、安全を確保しながら安定輸送を実現するために議論を行いました。

雪況カメラ…降積雪情報を収集するためのツールの一つとして使用

- あくまでツールの一つであり、導入で輸送障害が直ぐに減るかはイコールではない
- 運転の可否の判断は乗務員など現場からの情報が一番重要
- カメラの映像を見ることができるのは施設指令と各保線技術センター、エリアセンター
- 長鳥駅の軌間内消雪シートについては、井戸水が期待できないため深く掘るか、別の装置にするかとなる。雪況カメラをつけたので、積雪を見て除雪をするしかない

過酷な条件下での輸送確保…乗務員、お客さまの安全確保を求める

- MRでの除雪から営業列車の運転まで間隔が空く場合に、積雪防止のために回送列車を走らせる可能性はあるが、除雪を目的に走らせることはない
- ポイント不転時に乗務員に除雪対応を依頼するケースは発生しないとは言い切れない。状況を見に行ってもらいたいようなことは発生しないとはいえない

<組合> 前回、乗務員が出来ないとなれば否定しないと確認した。

<支社> 「この様な状況なので対応できない」という状況であれば。

- ビームからの落雪が予想される場合の注意運転速度の根拠について「何km/hなら必ず割れない」とは言えないが衝撃は和らぐ。45km/hではなくあくまで45km/h「以下」



ポイント不転対策…既存ヒーターの能力向上は実現せず

- 昨冬不転換が発生した上沼垂信号場構内のポイントのうち、95号はヒーターに絶縁不良が発生したため修繕済。96号、41号は設備的に問題は無くヒーターの能力は発揮している
- ポイント不転の発生によりホームの無い線路に列車を入れたため次の駅からタクシー手配という取扱いを行った岩船町駅、越後川口駅のポイントについても融雪設備はついている。能力向上にも費用がかかるため、改良は優先順位を勘案してとなる